

小児用肺炎球菌ワクチン・ヒブワクチンの接種を再開します



小児用肺炎球菌ワクチンとヒブワクチンの接種について一時見合わせていましたが、国で安全性が確認されたため、当町でも4月から接種を再開しています。接種をご希望される場合は、町内医療機関で受けてください。

●小児用肺炎球菌ワクチン

肺炎球菌による重い感染症を予防するためのワクチン

●ヒブワクチン

「インフルエンザ菌b型」による感染症を予防するためのワクチン

●対象者

生後2か月以上5歳未満のお子さん

接種を受ける場合の注意点

■予防接種を受けた後、ある程度の頻度で発熱や注射したところの発赤（赤い湿疹）などの軽い副反応が生じたり、ごくまれですが重篤な副反応が生じたり、あるいは、たまたま別の病気になったりすることがあります。体調などを医師とよく相談して受けることが大切です。

■接種の間隔が、予定より少し空いた場合でもワクチン接種を受けた後の免疫への効果には問題がないとされています。病気から身体を守るためには、なるべく早く接種しましょう。

■医師の判断と保護者の方の同意によつて、同時に複数のワクチン接種することが出来ます。同時接種は早く免疫をつけたり、受診の回数を少なくしたりするために行われます。ワクチンを複数同時に接種すると1つのワクチンを接種するより、発熱や注射した部位の発赤などの軽い副反応が起こりやすいという研究報告と心配ないとする報告があります。重い副反応が起こりやすくなるという報告はありません。

◆問い合わせ先

保健センター

☎ ②6574 有線⑤7777

感雑向綿

日野町長 藤澤直広

4月半ばというのに会津の春はまだ浅く、磐梯山など会津盆地の彼方にかすむ連山は白い残雪をとどめていました。鶴ヶ城の桜の蕾はやつ

とふくらんだばかり。福島県は相馬市や、いわき市など原子力発電所が立地する海岸に面した地域を「浜通り」、福島市や郡山市など内陸地域を「中通り」、そして県の西部を「会津」と呼びます。会津の人たちは出身を語るとき「福島県」ではなく「会津」といっています。平成18年10月に地元の強い要望で車のナンバーが「福島」から「会津」になり、会津若松市長の公用車は会津ナンバーの「1」です。

その会津若松市と日野町は「蒲生氏郷公ゆかりネットワーク」のご縁で交流しています。このたびの震災で、会津若松市には、「浜通り」の大熊町などから2,000人を超える人たちが市内の体育館や東山温泉の宿に避難されると聞き、日野町として支援しよ

うと町民の皆さんに呼びかけたところ、すぐに米130俵をはじめたくさんのお資が寄せられました。4月13日早朝、社会福祉協議会、日赤奉仕団の方々、(株)泉倉庫に協力いただいたトラック2台で出発、北陸道から磐越道をひた走り10時間、夕刻には無事に物資を届けることが出来ました。翌朝、菅家一郎市長を市役所に訪ねまし

た。会津地方の中心都市として避難者の受け入れに努力されていることがよくわかりました。また、風評被害によって観光客の減少や農作物への影響を大変心配されていました。市内には、いつもと同じように通りをゆきかう人たちの日常生活、一方で避難所の体育館では間仕切りもないフロアに布団の枚数だけのスペースで生活を余議なくされている人たちの非日常がありました。

国の責任でもっとしつかりとした対策を講じることが必要と実感するとともに日野町としてできる支援を続けなければと。そして、あらためて日野町の防災対策の充実を図らなければならぬと思いました。一日も早い復旧と復興のために力を合わせましょう。